令和４年度 日本大学文理学部付置研究所　所員個人研究費　研究実績報告書

所属・資格　　国文学科・教授

申請者氏名　　久保木　秀夫

<table>
<tr><td colspan="2">研　究　課　題</td><td>中古中世仮名文学を中心とする原本資料類の調査研究</td></tr>
<tr><td rowspan="3">報告の概要</td><td>研究目的
および
研究概要</td><td>古典文学研究の根幹を成すのはそれらの本文を伝える写本・版本・古筆切といった原本資料類である。その実物や複写物を対象とした調査によって、申請者が専門とする中古中世文学に関する新出資料や、再評価し得る資料、従来節を覆す資料などをなお多数、見出すことが可能である。
本研究では、原本資料を所蔵している各種機関、また複写資料を収集し続けている国文学研究資料館や東京大学資料編纂所といった研究機関を活用し、さらに古書販売目録に掲載されている原本資料類をも視野に収めつつ、学術的に有益な原本資料の発掘・調査・研究を進めていくものである。
その際、数百枚に及ぶ複写物の作成や、収集した資料のデータ処理などを行っていく必要がある。また古筆切を中心とする原本資料そのものについても、資料的価値の高いものと判断された場合には、当該研究費によって購入し、文理学部図書館に収蔵するかたちで保管し、調査研究に活用していくこととしたい。</td></tr>
<tr><td>研究の結果</td><td>遺憾ながらも、令和 3～4 年度と同様、コロナ禍による種々の制限により、原本資料の実地調査に赴くことができなかった。また学科主任という立場上、感染の確率を下げるために自粛したところも、昨年度同様に少なくなかった。
よって本年度も昨年度同様、これまでに調査・収集してきた膨大な量の原本資料類の整理や点検、より詳しい検討を推進していく方向に切り換えた。そうした結果、複数ある調査研究対象のうちいくつかに公表の目処が立ったため、「研究成果物」欄に示した論文を執筆し、学界・社会への還元に努めた。
また本年度、伝二条為忠筆『古今集』八半切 2 面分 1 点、及び伝慶運筆の散佚『続三百三十三首和歌』の巻頭部分の断簡 1 点が市場に顕れた。前者は形態的に目立った特徴を有するもので、南北朝時代の古写本の在り方を考える上で意義あるものと評価し得る。また後者は、ほぼ四半世紀ほど前に、申請者（久保木）自身が古典籍入札会で偶然目途していた断簡で、巻頭部たる故に、これで初めて書名が明らかにし得たという重要資料と判断された。その後行方不明となっていたため、本年度これに巡り会えたのは大変な収穫であった。よって以上 2 点、その学術的価値の高さから、本研究費を活用して購入し、本学図書館文理学部分館への収蔵を果たした。今後あらためて紹介する機会を設ける所存である。</td></tr>
<tr><td>研究の考察・反省</td><td>論文化したもの以外で現在集中的に調査研究を進めている作品として、『古今集』『新古今集』といった勅撰集、『古今六帖』『六華和歌集』といった私撰集、『貫之集』『紫式部集』『東常縁集』といった私家集、また『伊勢物語』『源氏物語』といった仮名散文などが挙げられる。
これまで蓄積してきた諸資料・諸データによって、いずれも相応に調査が進展しているが、より深い考察を行うためには、全国各地に収蔵されている多数の写本・版本・古筆切の実地調査がなお不可欠である。
何よりこの点、本年度に至るまでほぼ実施することができなかったため、令和 6 年度は調査活動を徐々に復活させていき、研究の進捗を図りたいと考えている。</td></tr>
</table>

研 究 発 表 学会名 発表テーマ 年月日／場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物 〈単著〉 ・第二次大戦下における研究者らの蔵書の行方―徳本正俊旧蔵『源氏物語』正徹本などの場合―（『むらさき』59 号、令和 4 年 12 月、紫式部学会） ・名著探訪　福井久蔵著『大日本歌書綜覧』（『和可文学研究』125 号、令和 4 年 12 月、和歌文学会） ・伝寂蓮筆『源氏物語』「若紫」断簡とその残欠本（『武蔵野文学』70 号、令和 4 年 11 月、武蔵野書院） ・『百人一首』『百人秀歌』の伝本と本文（『百人一首の現在』所収、令和 4 年 10 月、青簡舎） 〈共著〉 ・『百人一首』要調査伝本一覧抄（木村孝太と共著、『百人一首の現在』所収、令和 4 年 10 月、青簡舎）